

## 「社会の一員として生きていくこと」とは

あなたも何年後かには、自分で働いてお金を稼ぎ、社会の一員として自立して生きていくことになります。

(1) 高校卒業後の初任給(157,000円とします)で、自立した一人暮らしのやりくりを考えてみましょう。

		記入欄	参考資料			備考
			節約型	普通	贅沢型	
支出	家賃	, 円	50,000	65,000	75,000	給料の1/3が目安
	食費	, 円	25,000	30,000	40,000	
	水道・光熱費	, 円	6,000	10,000	15,000	
	携帯等通信費	, 円	3,500	5,000	10,000	
	娯楽費	, 円				
	税・社会保険料	, 円				
	預貯金その他	, 円				給料の約10%
合計		, 円				

\* 税・社会保険料は想像で記入してみよう

① 収入から支出合計を引いた額は?  
(プラスの額があればそれは預貯金に加えられます)

円

② マイナスの人は何を減らしますか?

(2) 頑張ってやりくりして生活しているあなたは、以下の事態に直面しました。あなたならどうしますか?

① 病気にかかり2週間入院。医療費が合計で50万円。

② 会社が倒産、失業してしまい、次の仕事を探すまで3ヶ月かった。

(3) 働いて自分の力で生活していくことは大切なことですが、病気や障害などやむを得ない理由でそれが困難になる人もいます(誰もがその可能性があります)。そういう人にどう対処するべきと思いますか。

# わたしたちの生活と社会保障

(イメージ)

社会保障制度は社会の知恵。一生を通じて私たちの生活を守り、ひいては社会の安定を守っています。

社会保障制度は、私たちが支払う保険料（収入に応じて負担）と税金で運営され、負担を分かち合っています。

国民年金加入  
保険料支払開始

所得税支払開始

## 子ども期

- ✓ 子どもの健やかな育ちを支える
- ✓ 子育てを応援する

認定こども園  
保育所  
幼稚園

予防接種  
乳幼児健康診査

児童手当

放課後児童クラブ

就学

出産育児の費用の支援  
病気・けがの治療

## 支え合いの制度

それぞれが、生活上の様々なリスクに備えて、社会保険料を支払い、万に備えて支え合います。

## 公的な支援の制度

税を財源として、対象となる人々を公的に支援します。

## 成人期

- ✓ 可能な限り自立した生活となるよう様々なリスクに対する保障を行う
- ✓ 重層的なセーフティーネットで支える
- ✓ より子どもを生み、育てやすい環境を整える

## 出産・子育て支援

妊産婦健康診査  
育児休業制度  
各種子育て支援策 等

出産

病気やけがの時は…

親の介護や  
扶養が必要になったら…

私的扶養等

退職

公的扶養等  
(負担軽減)

就事中事故に遭ったら…

就職

結婚

成人

失業したら…

失業時のサポート

ハローワークの就職支援  
雇用促進(若者・女性・障害者)  
求職者支援制度 等

病気・けがの治療

介護が必要な方の  
生活を支援

老後の生活の支え

障害年金

地域社会での安心した暮らし

障害者福祉サービス

生活保護

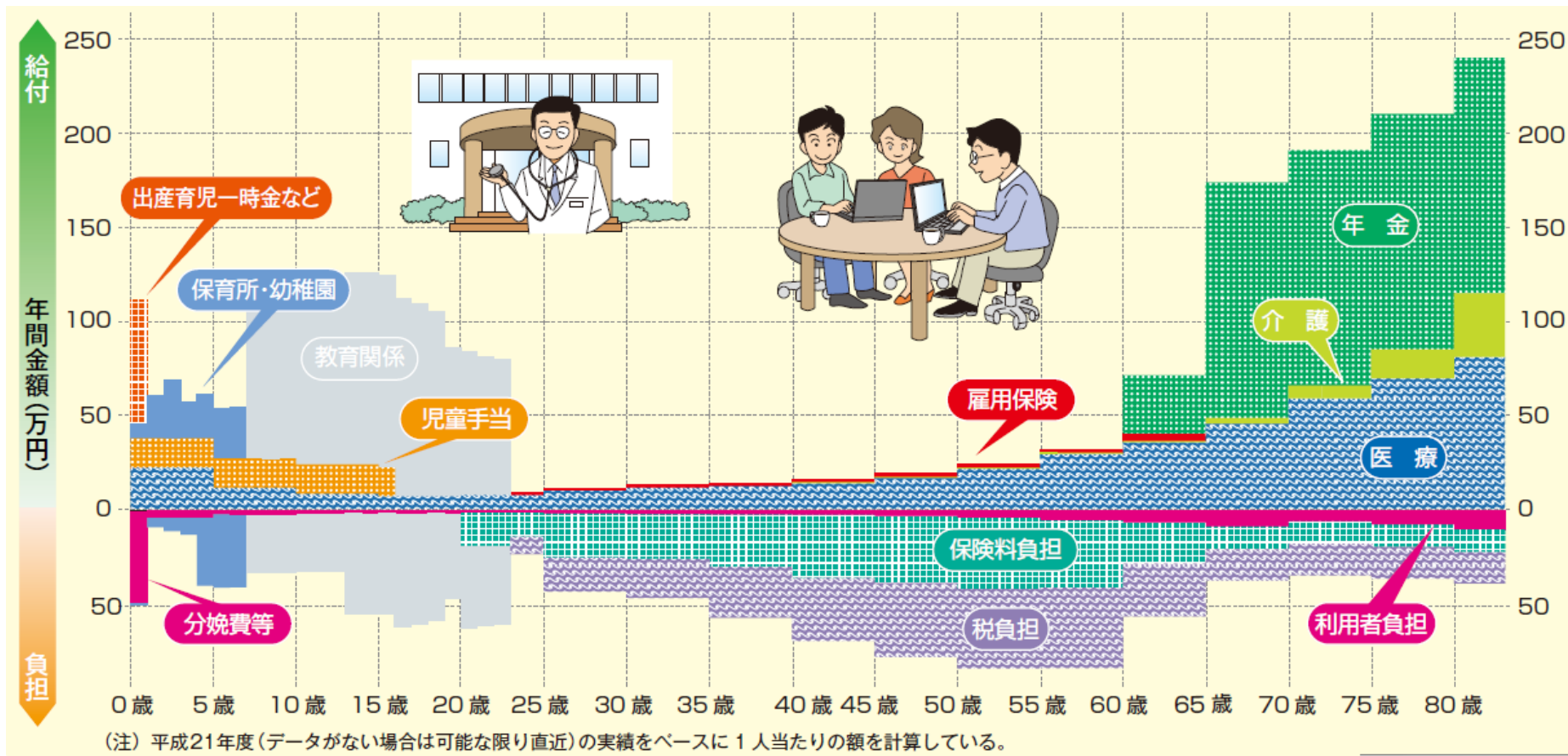
どうしても生活が  
困窮したら

医療扶助、生活扶助などの給付  
受給者のための就労支援

## 高齢期

- ✓ 老後の生活の安定を支える
- ✓ 住み慣れた場所での安心した暮らし

# ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ



- ここまでの学習で、社会保障制度に対するイメージはどう変わりましたか？

# 高校生として必ずおさえておきたい “年金の基礎知識”

「国民年金」を例にとり、社会保障に必要なお金をどのように集めて、どのように配分しているのかを見てみましょう。



- 20～59歳の国民が支払う保険料の水準（程度）と、お年寄りなどが受け取る年金の水準（程度）と、どちらを重視していくべきだと思いますか？

## 保険料を払い始める時期は？

大学に進学する場合 → 20歳から国民年金に加入することになります。

中学や高校を卒業して就職する場合 → 勤め先で厚生年金に加入することになります。（給料から天引きされます）

## どうしても払えない時は？

国民年金の保険料の納付が免除・猶予される制度があります。ただし、申請が必要です。

1. 学生で本人の前年所得が一定額以下の場合、保険料の納付が猶予されます。（学生納付特例制度）
2. 所得が一定額以下の場合に保険料が免除となる制度があります。

## 【免除の対象となる所得のめやす】(2012年度)

世帯構成	全額免除 若年者猶予	3/4免除	半額免除 学生特例	1/4免除
4人世帯 (夫婦+子2人)	162万円	230万円	282万円	335万円
2人世帯 (夫婦のみ)	92万円	142万円	195万円	247万円
単身世帯	57万円	93万円	141万円	189万円

※収入から各種控除した後の所得ベース

# 高校生として必ずおさえておきたい“公的年金のメリット”

## ●年金と貯蓄を比べてみましょう！

私たちは自分がどれくらい長生きするかわかりません。また、50年後の生活水準を予測することもできません。老後に備えて貯金することは大事なことです。長い人生には、自分1人では対応できないこともあります。公的年金があるのは、こうしたリスクへ社会全体で備える必要があるからです。

### 老後に備えて貯蓄しても…

人は、何歳まで生きるかは予測できない。  
(どれだけ貯蓄をすればよいのかわからない)

50年後の物価や賃金の変動は予測できない。  
(貯蓄しても、将来目減りするかもしれない)

いつ、障害を負ったり、小さな子どもがいる時に  
配偶者を亡くす(=所得を失う)かわからない。





### 公的年金なら…

終身(亡くなるまで)で受給できる

実質的な価値を保障された年金を受給できる

障害年金・遺族年金を受給できる

### 昔の物の値段を考えてみよう！

	うどん1杯	カレー1皿	食パン1kg	コーヒー1杯
1965年	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円
↓				
2010年	595円	742円	438円	411円